発行日：2023年（令和５年）１月15日　発行元：帝京平成大学スポーツ局メディア部（https://sj.thu.ac.jp）

TEIKYO HEISEI Sports Journal

Vol.2

SPORTS UNITED TEIKYO HEISEI UNIVERSITY

春こそ2部昇格を

3部優勝を決めた対一橋大２回戦。２度目のホームに向かう岩堀裕風。

東都大学野球 秋季リーグ 3部優勝も 入れ替え戦惜敗

東都大学野球秋季リーグ。２部昇格を目指す本学は、開幕カードとなった大正大戦こそ黒星を喫したが、その後は無敗の強さを見せつけ、３部でも優勝を果たした。しかし、神宮球場で11月３、４、11日の３日間行われた２・３部入れ替え戦では、２部６位の国士舘大に一歩及ばず、２部昇格は来季以降に持ち越しとなった。

記事と写真：比嘉理貴

今年度の集大成の舞台であり、２戦先勝で２部昇格が決まる入れ替え戦は第３戦にもつれ込む熱戦となった。

本学は、秋季リーグ開幕戦となった第１週の大正大戦で４戦目までもつれ込んだあげく、１勝２敗１分けで手痛い黒星スタートとなったが、その後は本来の調子を取り戻して、８戦全勝と負けなし。４部に次いで３部でも優勝を手にした。

そして迎えた正念場の入れ替え戦。本学は、１回戦では、持ち前の打線が爆発、５回に４番山本（大）の３ランを含む６本の長短打で一挙に６点を入れ、９－１で快勝、２部昇格に王手をかけたが、続く２戦を連敗し、惜しくも３部残留となった。

22年初めに東都大学野球連盟に加盟を果たした本学は、春季リーグ４部で負けなしの全勝優勝。３、４部入れ替え戦でも圧倒的な強さを見せて、３部に昇格していた。

東都大学野球リーグは今季、１・２部、２・３部、３・４部の各入れ替え戦がすべて第３戦にもつれ込み、「戦国東都」と称されるにふさわしい展開となった。

２部昇格を果たせなかった本学だが、心機一転、来季での２部昇格を誓っている。

発行日：2023年(令和5年)1月15日

TEIKYO HEISEI SPORTS JOURNAL Vol.2

入れ替え戦 詳報

（記事　髙木瑞希、南雲越喜）

第3戦までもつれ込んだ2、3部入れ替え戦。11月の神宮球場での戦いを振り返った。

一回戦

打線爆発で快勝

▽国士舘大　1－9　帝京平成大

（11月3日）　本学は5回、先頭打者の6番中島がヒットで出塁、8番中村が相手のミスを誘う犠打で二、三塁とし、9番岩堀のセンターへのタイムリーヒットで先制、4番山本(大)がバックスクリーンに飛び込む3ランを放つなど一挙6点を挙げた。7回、8回にも追加点を入れた。

二回戦

土壇場で追いつくもサヨナラ負け

▽帝京平成大　3－4　国士舘大

（11月4日）　2回、5番大石の左翼席に飛び込むソロで先制。その後逆転を許すものの、2点を追う9回、2死二塁から前田がレフトポール際に飛び込む同点2ランを放って、土壇場で試合を振り出しに戻した。しかしその裏、1死二塁で救援に立ったエースで主将の更田が左中間を破られサヨナラ負けを喫した。

三回戦

打線振わず

▽帝京平成大　2－7　国士舘大

（11月11日）　本学は1回、1死二塁から3番前田のセンター前のタイムリーヒットで先制するも、2回に相手のソロホームランで同点に追いつかれた。3回には国士舘大打線に連打を浴び、5点を失った。救援に入った伊藤は、5回1/3を1点に抑えたものの、打線が振るわず、2－7で敗れた。

1回戦

帝平大	国士大
0	0
0	0
0	0
0	0
6	0
0	0
2	0
1	1
X	1
9	1

守備位置	選手	打数	安打	打点
[二]	満田	5	2	0
[中]	佐伯	3	1	2
[三]	前田	4	1	1
[指]	山本(大)	4	1	3
[遊]	大石	4	1	0
[右]左	中島(颯)	3	1	0
[左]	曽場	3	0	0
H	荒木	1	0	0
右	宇佐美	0	0	0
[一]	中村	4	2	1
[捕]	岩堀	4	4	1

三14　球0　犠打飛2　盗1　失0　残4
二塁打 佐伯　本塁打 山本

			回数	被安打	自責
先発	更田	勝	8	6	0
	行方		1	2	1

2回戦

国士大	帝平大
0	0
0	1
0	0
1	0
1	0
0	0
1	0
0	0
1x	2
4	3

守備位置	選手	打数	安打	打点
[二]	満田	3	0	0
[中]	佐伯	3	0	0
H	荒木	1	0	0
中	金本	0	0	0
[三]	前田	4	2	2
[指]	山本(大)	4	0	0
[遊]	大石	3	2	1
[右]左	中島(颯)	3	0	0
[左]	曽場	2	0	0
H	栃木	1	0	0
右	宇佐美	0	0	0
[一]	中村	2	0	0
H	馬渡	1	0	0
一	宇都宮	0	0	0
[捕]	岩堀	3	0	0

三13　球1　犠打飛0　盗0　失2　残1
二塁打 大石　本塁打 大石 前田

			回数	被安打	自責
先発	鶴我		5	3	1
	伊藤(翔)		1 2/3	2	1
	林(侑)			1	0
	五十嵐	負	1 2/3	0	1
	更田		1/3	1	0

3回戦

国士大	帝平大
0	1
1	0
5	0
1	0
0	1
0	0
0	0
0	0
X	0
7	2

守備位置	選手	打数	安打	打点
[二]	満田	5	1	0
[中]	佐伯	4	0	0
[三]	前田	5	4	2
[捕]	岩堀	4	1	0
[遊]	大石	3	1	0
[右]左	中島(颯)	4	2	0
[左]	曽場	2	0	0
H	馬渡	1	0	0
右	宇佐美	0	0	0
[指]	荒木	4	0	0
[一]	石見	2	0	0
H三	山本(大)	2	0	0

三12　球2　犠打飛1　盗0　失0　残10
二塁打 前田　大石

			回数	被安打	自責
先発	更田	負	2 2/3	7	6
	伊藤（翔）		5 1/3	3	1

3部ベストナイン

投手	由良 一翔	(学習大)	9票 [2]
捕手	岩堀 裕風	(帝平大)	13票 [初]
一塁手	小沢 優翔	(大正大)	11票 [初]
二塁手	満田 颯汰	(帝平大)	14票 [初]
三塁手	前田 幸輝	(帝平大)	16票 [初]
遊撃手	三家本 直希	(一橋大)	16票 [初]
外野手	若林　拓	(学習大)	17票 [2]
	菅谷 優生	(順天大)	14票 [初]
	中島 颯人	(帝平大)	12票 [初]
指名打者	髙橋 星雅	(大正大)	12票 [初]

3部表彰選手

最高殊勲選手	更田 篤稔	(帝平大)	14票 [初]
最優秀投手	更田 篤稔	(帝平大)	14票 [初]
最優秀防御率	植竹 遼	(大正大)	防御率 1.19
首位打者	菅谷 優生	(順天大)	打率 .393
敢闘賞	大田 響介	(一橋大)	11票 [初]

秋季リーグ成績

	順位	大学	試合数	勝ち数	負け数	引き分	勝ち点	勝率
1部	1	國學院大	13	9	4	0	4	.692
	2	中央大	12	8	4	0	4	.667
	3	青山学院大	12	7	5	0	3	.583
	4	亜細亜大	13	6	7	0	2	.462
	5	日本大	12	4	8	0	1	.333
	6	駒澤大	12	3	9	0	1	.250
2部	1	専修大	12	9	3	0	4	.750
	2	東洋大	12	8	4	0	4	.667
	3	立正大	12	6	6	0	3	.500
	4	東京農大	12	6	6	0	2	.500
	5	拓殖大	10	4	6	0	2	.400
	6	国士舘大	12	2	10	0	0	.167
3部	1	帝京平成大	12	9	2	1	4	.818
	2	学習院大	11	7	4	0	3	.636
	3	順天堂大	11	6	5	0	3	.545
	4	大正大	12	6	6	1	3	.500
	5	一橋大	12	5	7	0	2	.417
	6	上智大	11	1	10	0	0	.091
4部	1	成蹊大	13	12	1	0	6	.923
	2	東京都市大	14	9	5	0	4	.643
	3	芝浦工大	14	4	10	0	1	.286
	4	東京工大	13	2	11	0	1	.154

3部打撃トップ10

順位	選手名	大学名	打数	安打	本塁	打点	盗塁	打率
1	菅谷	順大	28	11	0	8	0	.393
2	高橋	大正大	39	15	0	4	1	.385
3	満田	帝京平成大	41	15	0	6	4	.366
4	赤尾	学習大	45	16	0	7	2	.356
5	小澤(拓)	順大	37	13	0	6	2	.351
6	小沢	大正大	39	13	1	5	0	.333
7	若林	学習大	43	14	2	13	3	.326
8	伊藤(優)	大正大	34	11	0	9	1	.324
9	前田	帝京平成大	50	16	0	10	4	.320
10	菅沼	順大	38	12	0	2	5	.316

秋季リーグ入れ替え戦結果

1－2部	駒澤大	(1部6位)	2勝	残留	×	専修大	(2部1位)	1勝	残留
2－3部	国士舘大	(2部6位)	2勝	残留	×	帝京平成大	(3部1位)	1勝	残留
3－4部	上智大	(3部6位)	1勝	降格	×	成蹊大	(4部1位)	2勝	昇格

東都加盟1年目のチームを牽引してきた更田主将に聞いた。

Q●リーグ戦、そして2部、3部入替戦を振り返って率直な思いは。

A●2部3部入替戦は全て自分の実力不足で勝つことができなかった。応援してくださったファンの方々、チームメイト、後輩たちに本当に申し訳ない気持ちでいっぱいだ。

Q●大学野球の4年間を振り返って。

A●1、2年は怪我やコロナの影響で野球ができずに体づくりに専念した。同級生が試合に出てるのを見て悔しく、情けなかった。3年の春からようやくリーグ戦で投げることができたが、4回ノックアウトで降板。しかし、3年の秋には1学年上のエースの怪我で1戦目を任されるなど、千葉リーグ2部初優勝に少しは貢献できたと思う。今シーズン、東都大学野球連盟に移籍し注目を浴びる中で野球ができたことは本当に嬉しい。

Q●大学野球を通じて1番成長したと感じる部分は。

A●やり抜く力。3年の春までは様々な情報に手を出し2、3回やって効果が出ないと辞めてしまっていた。3年の夏から同じ事を最後までやり抜けるようになった。結果、メンタルが安定し試合で結果を出せるようになった。

Q●今後の後輩たちに何を期待するか。

A●それはただ一つ。春での2部昇格。私は、外から静かに応援したいと思う。この硬式野球部は、ようやく野球部らしくなってきたと思います。もっと強くなると確信しています。これからも、硬式野球部をよろしくお願いいたします。

SPORTS UNITED
TEIKYO HEISEI UNIVERSITY

発行日：2023年(令和5年)1月15日

TEIKYO HEISEI SPORTS JOURNAL Vol.2

全日本大学女子サッカー 初戦で涙のむ

年末年始恒例の全日本大学女子サッカー選手権大会。第31回の今大会、本学女子サッカー部は関東リーグを2位で勝ち上がり、12月26日、兵庫県三木市の三木総合防災公園第2陸上競技場で行なわれたラウンド16（2回戦）に登場したが、中国地区代表の吉備国際大を相手に、1対1の同点のまま突入したPK戦の末、敗退した。

記事：鹿子嶋天良

10月30日の日体大戦でプレーする14番越路萌永

ドリブルを仕掛ける4番浅野綾花

スライディングをする古賀花野

試合開始前観客に向けて手を掲げている

全国大会には全国の地区リーグを勝ち上がった24校が出場。ラウンド16から登場した本学は、吉備国際大を相手に、前半を0対0で折り返すと、後半開始直後の46分にMF鈴木菫が先制のゴールを決めた。しかし、70分に同点に追いつかれ、そのままPK戦にもつれ込み、4対3で涙を飲んだ。

関東大学女子サッカー連盟は、1部12校、2部10校、3部7校、C・E（普及リーグ）7校の計36校で構成されている。

今季リーグ戦では、初戦の国際武道大学を1・0と勝利し、白星スタート。2戦目の神奈川大学戦では、0・2と今季初黒星を喫したが、その後は、5連勝するなど、順調に前半戦を折り返した。後半戦に入ってもその勢いは止まらず一時は首位に立ったが、終盤で失速気味となり、最終成績を22戦14勝3分5敗として2位となった。

ゲームキャプテンの古賀花野選手（健康医療スポーツ学部3年）は今季を振り返って、「相手をよく見て、私達らしいサッカーをやり続ける事ができた」と清々しい笑顔で語った。

◇◇◇

後半戦の戦いを振り返る。

▼十文字学園女子大学　0・1

（11月3日）　試合開始4分、十文字学園に1点を取られると、その後は本学ディフェンス陣が堅い守りでシュート数を0本に抑えた。しかし本学は、前後半計8本のシュートを放つも、得点とはならず、最終戦を黒星で終えた。

▼日本体育大学　0・0

（10月30日）　前半は本学が1本のシュートを放つも、日体大の守備に苦戦し、得点とはならなかった。後半では、本学が3本、日体大が2本のシュートを放ったが、いずれも得点にはならず、引き分けた。

▼早稲田大学　2・1

（10月23日）　前半23分に小原からのコーナーキックを浅野が押し込み1点を先制。後半46分に1点を失うも、江崎が後半62分に追加点を挙げ勝利した。

▼東洋大戦　1・2

（10月15日）　前半は両チーム4本ずつシュートを放ったが、得点とはならず0・0で後半に入った。50分には加藤が先制点を決めたが、74分に1点、さらに94分に1点を追加され、逆転負けした。

▼山梨学院大戦　0・0

（10月8日）　前半は1本のシュートを放つも、山梨学院大の守備に苦戦し、決めきれず前半終了。後半に入ると相手のシュート数を0本に抑えたが、本学の放った2本のシュートも外れ、引き分けとなった。

▼東京国際大戦　0・0

（10月2日）　前半は東京国際大の6本のシュートを凌ぎ、後半に入った。本学は7本のシュートを放ったが、決め手に欠けた。

▼筑波大戦　2・1

（9月25日）　前半38分に小原からのパスを太田がゴールを決め先制。後半に入った直後の51分には、宮嵜のパスを受け、古賀が追加点を入れた。72分には1点を返されたが、逃げ切った。

▼日大戦　1・0

（9月7日）　本学は、0対0で迎えた後半61分、古賀からのパスを江崎がゴールに蹴り込み1点先制すると、そのまま逃げ切り勝利を納めた。1日に行なわれた国際武道大学との一戦では、3対0で勝利している。

▼国際武道大戦　3・0

（9月1日）　前半24分に福永のゴールで先制。後半開始直後の47分に太田のパスに、古賀が反応し、2点目を挙げた。試合終了間際の86分にも富沢がゴールを決め、快勝した。

▼神奈川大戦　3・0

（8月27日）　本学は前半終了直前の45分、越路からのパスを古賀が決めて、先制。さらに後半61分、小原からのパスを太田が蹴り込んで2点目を挙げると、アディショナルタイムに福永のゴールで3点目を挙げた。前回5月の対戦では2対0で敗れており、雪辱を果たした。

▼大東文化大戦　2・0

（8月20日）　試合開始直後の4分、古賀がゴールを決め先制。前半34分には加藤がロングシュートを決めた。

関東大学女子サッカーリーグ1部順位表

順位	チーム名	勝点	試合	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	東洋大学	53	22	17	2	3	56	18	38
2	帝京平成大学	45	22	14	3	5	40	14	26
3	山梨学院大学	41	22	12	5	5	56	26	30
4	早稲田大学	38	22	11	5	6	35	16	19
5	神奈川大学	35	22	10	5	7	25	25	0
6	日本体育大学	34	22	10	4	8	31	25	6
7	東京国際大学	33	22	9	6	7	18	18	0
8	日本大学	32	22	10	2	10	37	39	-2
9	十文字学園女子大学	24	22	7	3	12	17	39	-22
10	筑波大学	21	22	6	3	13	14	31	-17
11	大東文化大学	14	22	3	5	14	10	38	-28
12	国際武道大学	4	22	1	1	20	6	56	-50

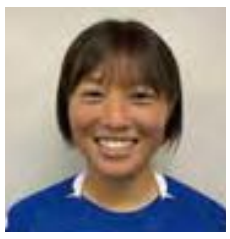
本学からベストイレブンへ 5名が選出された

2022年4月から11月まで行われていた、第36回関東大学女子サッカーリーグの表彰式が12月5日にオンラインで行われた。本学からは、ベストイレブンに6番渡邊那奈選手、29番宮嵜彩菜選手、4番浅野綾花選手、7番江崎世来選手、10番古賀花野選手の5人が選出された。

ディフェンダー
渡邊那奈
健康医療スポーツ学部3年

ミッドフィルダー
浅野綾花
健康医療スポーツ学部3年

フォワード
古賀花野
健康医療スポーツ学部3年



ディフェンダー
宮嵜彩奈
健康医療スポーツ学部2年

ミッドフィルダー
江崎世来
健康医療スポーツ学部2年

地域の子どもたちと共に

取材・文　鹿子嶋　天良

女子サッカー部の選手達が、月に1、2回小学校低学年を中心にサッカースクールを行っている。本学が、千葉、ちはら台両キャンパスを拠点に地域交流事業として実施している総合型地域スポーツクラブ「帝京平成スポーツアカデミー」の一貫。

今年度は、4月4日の第1回から現在（11月）まで18回開催されており、参加した子供達は、学生が工夫して考えた練習メニューに一生懸命取り組んできた。

第1回と第12回の二度、コーチとして子供達を指導した宮嵜彩菜選手（健康医療スポーツ学部2年）は、「子供達と時間を忘れるほど楽しみながら、指導する立場の在り方や大切な事を学んだ」と自らの成長にもなったとしたうえで、「子供達にサッカーの魅力を知ってもらい、このアカデミーを通じて日頃からお世話になっている地域の方々に少しずつ恩返しをしていきたい」と語った。

1年生ながらアカデミーの指導者として参加した太田凪砂選手（健康医療スポーツ学部1年）は、「メニューの作り方やどうしたら子供達に分かりやすく伝えられるかを工夫しながら行った」「これからも感謝を忘れず積極的に地域貢献を行っていきたい」と語った。

TEIKYO HEISEI SPORTS JOURNAL Vol.2
発行日：2023年(令和5年)1月15日

男子バスケ部快挙

関東大学リーグ3部で優勝、2部昇格

男子バスケットボール部は、第98回関東大学バスケットボール3部リーグで優勝し、2部昇格を決めた。3部優勝、2部昇格は、いずれも1988年の創部以降初めての快挙だ。

記事・写真：鹿子嶋 天良

DFと駆け引きをする98番八尾航平

DFをかわしシュートを決める9番梶本賀一

シュートを放つ21番森谷康太

賞状を手に笑顔を見せる選手たち（バスケット部提供）

関東大学バスケットボール連盟は、1部14校、2部12校、3部12校、4部28校、5部40校の計106校で構成されている。

9月7日に始まった今季リーグ戦では、初戦一橋大に101-77で圧勝すると、波に乗り破竹の8連勝。その後も着実に白星を重ね、最後は16戦13勝3敗で3部の頂点に立った。

今季の活躍により、MVPに大井史哉主将(人文社会学部4年 写真=後列右から2人目)が選出されたほか、アシスト王に木村遥音(人文社会学部2年 写真=後列左)、リバウンド王に梶本賀一(人文社会学部4年 写真=後列左から2人目)が輝いた。

MVPの大井主将は、今季を振り返って、「ずっと目標に掲げてきた2部昇格をようやく達成できた」と満面の笑みを浮かべながらも、「初の2部なのでレベルや環境に慣れない事も出てくるだろうが、必死に戦い抜くことを期待している。2部でも素晴らしい成績を残してくれることを確信している」と後輩にエールを送った。

◇◇◇

今季の戦いぶりは以下の通り。

▼**明治学院大戦** 81-90
(10月30日) 1P23-16、2P16-18と39-34の5点リードで前半を終えるも、本学の3ポイントが6/35と振るわず、後半に失速し、逆転負けした。

▼**慶應義塾大戦** 74-71
(10月23日) 1P21-24、2P18-14、3P13-16、4P22-17と、一進一退の攻防だったが、98番八尾航平の20得点というのもあり、この試合を制した。

▼**國學院大戦** 91-70
(10月22日) 1P15-19、2P19-15と前半は一進一退の攻防を繰り広げたが、1番 木村遥音の31得点という爆発もあり、21点差で勝利した。

▼**玉川大戦** 71-90
(10月16日) 1P12-26、2P23-24と流れを掴めずに、15点差で前半を終えた。3P、4Pでも調子が上がらず36-40と負け越し、今季2敗目となった。

▼**国際武道大戦** 90-75
(10月15日) 1Pは17-13と接戦ながらもリードし、2Pには30-14の大量得点で前半を終えるも、3P25-17、4P18-31と劣勢に立たされる。しかし、45番大井史哉の26得点という奮闘もあり、逃げ切った。

▼**西武文理大戦** 104-92
(10月10日) 1P30-21、2P21-15と圧倒し、15点リードで前半を終えたものの、3Pは32-25、4Pには21-31と、大きく詰められるなど、最大20点のリードが途中8点差まで縮められた。しかし、1番 木村遥音の3ポイント7本という爆発もあり、逃げ切り勝利した。

▼**国際武道大戦** 82-63
(10月8日) 1Pを19-18、2Pを19-11と接戦ながらもリードし前半を終えると、3Pは18-15、4Pには26-19と突き放し勝利した。

▼**國學院大戦** 77-87
(10月5日) 1Pを24-20、2Pを29-18と好調なスタートを切ったが、3P12-26、4P12-23と劣勢に立たされ、今季初黒星を喫した。

▼**明治学院大戦** 87-56
(9月25日) 1Pを21-10と滑り出したが、2Pで13-17とリードを許した。しかし、3P、4Pは順調にリードを重ね、さらに、1番木村遥音が3ポイントを5/11と高確率で沈め、快勝した。

▼**玉川大戦** 66-63
(9月24日) 1P16-26、2P11-14と前半から劣勢に立たされるが、3P20-11、4P19-12と後半から主導権を握り、逆転勝利した。

▼**慶応大戦** 66-61
(9月19日) 今リーグ戦初めての接戦となった。1Pを18-10と優勢でスタートした。2Pを11-19、3Pを17-21と劣勢に立たされたが、1番木村遥音が31得点と爆発し、逆転勝ちした。

▼**文教大戦** 125-76
(9月18日) 1Pを42-28で好調な滑り出しを見せると、その後も各Pで得点を重ね、3Pでは40-12と大差を付け、49点差で勝利した。

▼**亜細亜大戦** 92-52
(9月17日) 2Pを終えた段階では、39-42とリードを許したが、続く3Pには、19-2。4Pには34-8と圧倒的な強さを見せ逆転勝ちをした。

▼**桐蔭横浜大戦** 114-72
(9月11日) 1Pを33-12、2Pを20-12、3Pを38-21と順調に得点を重ね、4Pは23-27だったが、6人が2桁得点を記録し、圧勝した。

▼**東経大戦** 104-65
(9月10日) 1Pを33-26で終えると、2Pを21-14、3Pを30-8、4Pを20-17と順調に得点を重ね、5人が2桁得点を記録したこともあり、39点差で圧勝した。

▼**一橋大戦** 101-77
(9月7日) 1Pで29-19と差を付けると、2Pで22-11、3Pで24-20、4Pは26-27だったが、9番梶本賀一の20得点もあり、計101点と大量得点で勝利した。

総リバウンド

順位	選手名		ゲーム数	リバウンド オフェンス	ディフェンス	合計
1	梶本 賀一	帝京平成大学	16	83	143	226
2	大井 史哉	帝京平成大学	16	84	105	189
3	須藤 士恩	西武文理大学	16	55	114	169
4	古田 航大	明治学院大学	16	63	100	163
5	髙島 孝太郎	慶應義塾大学	16	60	101	161

総アシスト

順位	選手名		ゲーム数	アシスト
1	木村 遥音	帝京平成大学	16	95
2	太田 誠	國學院大學	16	71
3	鈴木 勇衣	東京経済大学	16	61
4	神矢 龍之介	亜細亜大学	16	60
5	藤島 渓	慶應義塾大学	16	51

総ブロック

順位	選手名		ゲーム数	ブロック
1	澤 浩己	明治学院大学	16	18
2	佐藤 浩司	亜細亜大学	16	17
3	蛇谷 幸紀	慶應義塾大学	16	16
4	大井 史哉	帝京平成大学	16	16
5	太田 誠	國學院大學	16	15

総得点

順位	選手名		ゲーム数	総得点	3P 成功数	3P 試投数	2P 成功数	2P 試投数	フリースロー 成功数	フリースロー 試投数
1	吹原 颯太	西武文理大学	16	370	10	37	141	285	58	82
2	大武 悠真	文教大学	16	343	47	150	82	193	38	56
3	天野 皓介	東京経済大学	16	322	39	92	84	166	37	54
4	水谷 祐葵	慶應義塾大学	16	283	39	122	63	163	40	54
5	木村 遥音	帝京平成大学	16	267	32	120	66	129	39	69

関東大学バスケットボールリーグ3部順位表

順位	大学	勝	負	勝率	勝ち点	得点	失点
1	帝京平成大学	13	3	.813	29	1425	1160
2	玉川大学	12	4	.750	28	1286	1035
3	國學院大學	11	5	.688	27	1268	1054
4	明治学院大学	10	6	.625	26	1222	1093
5	西武文理大学	9	7	.563	25	1270	1217
6	慶應義塾大学	9	7	.563	25	1212	1064
7	東京経済大学	9	7	.563	25	1283	1227
8	国際武道大学	8	8	.500	24	1200	1199
9	一橋大学	5	11	.313	21	974	1205
10	桐蔭横浜大学	4	12	.250	20	1106	1317
11	亜細亜大学	4	12	.250	20	907	1093
12	文教大学	2	14	.125	18	1035	1524

発行日：2023年(令和5年)1月15日

TEIKYO HEISEI SPORTS JOURNAL Vol.2

柔道部躍動の立役者3選手に聞いた

（聞き手　眞木雄太郎、写真　柔道部提供）

男子81kg級 老野祐平主将

（健康医療スポーツ学部3年）

今シーズンの成績：ポルトガル国際大会（1月）3位、全日本強化選手選考会（5月）優勝、全日本学生体重別選手権（10月）優勝、講道館杯全日本体重別選手権（10月）2回戦

Q●今シーズンをどのように振り返りますか。

A●講道館杯を優勝、グランドスラム東京で優勝を目標に掲げていたので、そこを達成できず悔いが残るシーズンになりました。

Q●全日本学生柔道体重別選手権大会に優勝し、学生日本一を達成できた要因を教えてください。

A●5月の強化選手選考会が終わり、相手を強引に投げにいく力強さの強化に取り組んできました。これまでは、相手の動きに合わせて、技を出してきました。それは、裏を返せば、相手とのタイミングが合わなければ、技を出すことが出来ないという欠点にもなっていたと思います。また、技の繋ぎについても一から見直し、手数が止まらないような工夫を行ってきました。全日本学生柔道体重別選手権の結果は、これらの取り組みの成果だと思っています。

Q●23年の目標を教えてください。

A●出場する大会はすべて優勝することです。そのためには、講道館杯で負けた悔しい思いを忘れることなく、一からまた自分の柔道を作り上げていきたいと思っています。

女子70kg級 田嶋海佳選手

（健康医療スポーツ学部2年）

今シーズンの成績：関東学生柔道体重別選手権（8月）準優勝、全日本ジュニア体重別選手権（9月）3位、全日本学生体重別選手権（10月）ベスト8、講道館杯全日本体重別選手権（同）1回戦

Q●21シーズンをどのように振り返りますか。

A●去年は結果が残せず、伸び悩んでいました。2年に上がった際、田中監督と面談を行い、そのとき、1年間の目標を伝えました。「全国大会入賞。講道館杯出場」と自分には高すぎる目標だと感じていたのですが、田中監督は「お前ならできる」と鼓舞する言葉を下さいました。この言葉を信じ一生懸命稽古に取り組んだことが、今シーズンの大きな成長に繋がったと思います。

Q●念願の出場となった講道館杯は田嶋選手にとってどのような大会になりましたか。

A●出場が決まった当初は、目標を達成することができ、満足した気持ちでした。ですが、しだいに勝ちたいという思いが強まっていきました。一回戦で負けてしまったのですが、自分の足りないところを発見できる大会になりました。

Q●23年の目標を教えてください。

A●全日本学生柔道体重別選手権大会での優勝。そして、講道館杯での表彰台です。そのためには毎日コツコツ稽古に励むことが重要だと思っています。

男子100kg級 梶原大裕選手

（健康医療スポーツ学部3年）

今シーズンの成績：関東学生体重別選手権（8月）準優勝、全日本学生体重別選手権（10月）ベスト16、講道館杯全日本体重別選手権（同）1回戦

Q●今シーズンをどのように振り返りますか。

A．私は全国大会に出場するのは今シーズンが初めてだったのですが、稽古に熱が入りすぎてしまい試合2週間前に怪我をしてしまいました。大きな大会に向け調子のピークを持っていく難しさを初めて感じたシーズンとなりました。けれども、怪我した状態での戦い方を学べたこと、全国大会の舞台に立てたということは、来年に繋がる経験になったと思います。

Q●関東学生柔道体重別選手権大会に準優勝に輝き、講道館杯の切符をつかんでから、どのような思いで稽古に取り組んで来ましたか。

A●キャプテンの老野が（全日本強化選手選考会などで）優勝し、どんどん結果を残しているなか、自分も何か一つ、追いついて行かなければ、という思いで稽古を積んできました。

Q●23年の目標を教えてください。

A●昨年勝ちきれなかった関東学生柔道体重別選手権大会で優勝。講道館杯と全日本学生柔道体重別選手権大会では、一つでも多く勝てるよう稽古に励んでいきたいと思います。

活躍の場を広げるチアダンス部

初の大会出場　新国立競技場でもパフォーマンス

記事と写真　眞木雄太郎

チアダンス部は10月29日、東京都大田区総合体育館で行われた全日本チアダンス選手権大会関東予選大会に初出場した。大会に出場するのは、創部以来初めてで、人文社会学部4年のキャプテン荻咲野（おぎ・さくの）さんは、「大会の雰囲気を味わうことができて、とても良かった。この経験は次に繋がる大きな一歩になる」と語った。

大会に向けた練習では、表現したいイメージに合わせ、音源から作成し、パフォーマンスを練り上げてきた。

審査員の評価が書かれたスコアシートには、笑顔の項目で、高得点が記されていた。「〝笑顔で楽しく〟をモットーに臨んだ今大会で、そのような評価を貰うことができて、満足している。やってきたことがしっかりと出せた」と荻キャプテンは声を弾ませた。

これに先立つ10月9日には、新国立競技場で行なわれたJFL（日本フットボールリーグ）第24節クリアソン新宿vs鈴鹿ポイントゲッターズの試合のハーフタイムショーに出演、大舞台も経験した。

鈴鹿ポイントゲッターズにはサッカー界のレジェンドの三浦知良選手が所属しており、この日の試合にも出場。入場者数は1万6000人以上にも上った。

いつの日か箱根路へ

記事　中嶋めぐ　写真　眞木雄太郎

第99回東京箱根間往復大学駅伝競争予選会（箱根駅伝予選会）が10月15日に行われ、本学の陸上競技部が出場した。3年ぶりに従来のコースである陸上自衛隊立川駐屯地から立川市市街地、そして昭和記念公園を回るコースでの開催となり、本学は38位、総合タイム12時間8分14秒のゴールとなった。

箱根駅伝予選会は出場資格が厳しく、どの大学でも参加できるというわけではない。

関東学生陸上競技連盟に加入している大学で、申込期日前日までにエントリー者全員が1万mを34分以内のトラック公認記録を持っていることが条件である。

本学の陸上競技部監督は2020年12月に退任しており、現在まで監督がいない中、チームづくりを意識した練習に励み、試行錯誤しながら活動を続けてきた。

キャプテンの岡田拓巳選手（4年）は予選会終了後、「納得のいく順位とタイムには届かなかった」と悔しさをにじませたが、「来年につながるところもあった。後輩に任せたい」と前向きに語った。

関東学生陸上競技連盟は6月、第100回大会の参加資格をこれまでの関東圏の大学だけでなく全国の大学にも広げる方針を発表している。さらに熾烈さが増しそうだ。

発行日：2023年(令和5年)1月15日

TEIKYO HEISEI SPORTS JOURNAL Vol.2

男女柔道部 個人、団体ともに躍動 老野主将 81kg級で学生王者に 目指せパリ！

（記事　眞木雄太郎　写真は柔道部提供）

男女ともに躍動した。

男子柔道部の老野裕平主将が10月に行われた全日本学生柔道体重別選手権（全日本インカレ）の81kg級で優勝、学生柔道界の頂点に立った。五輪選手も参加するなど名実ともに日本一を決める講道館杯全日本体重別選手権では初戦敗退したものの、これをバネに来るべき戦いに向け決意を新たにしている。

老野選手は22年1月、日本代表として出場したポルトガルの国際大会で3位。5月には全日本強化選手選考会で優勝と、輝かしい成績を収めている

男子柔道では、インカレへの切符をかけた関東学生体重別選手権100kg級で梶原大裕選手が準優勝し、インカレではベスト16に進出。さらに講道館杯にも歩みを進めた。女子では、70kg級で田嶋海佳選手が、全日本ジュニアで3位、関東学生体重別選手権大会でも準優勝し、インカレではベスト8に進出。講道館杯にも出場した。

団体戦でも、男女とも10月中旬の全日本学生体重別団体優勝大会（全日本インカレ団体）に出場を果たした。本大会の出場は、男子が昨年に続き2度目、女子は創部以来初の快挙だった。

同大会で、男子は、21年度の一回戦敗退から大きく歩みを進めベスト16。初出場の女子は一回戦で敗退したが、今後の飛躍に期待できる大会となった。

男子柔道部は、今年度、創部4年目を迎え、1年生から4年生まですべて揃う年となる。一方の女子柔道部は、男子と合同で稽古を行うなど、昨年から、新しい試みに取り組んできた。男女共に今後の躍進に期待がかかる。

編集後記

TEIKYO HEISEI Sports Journal vol.2をお届けします。創刊号発行から6か月。この間、本学の各強化部は躍動しました。本号の各ページから、選手たちの活躍ぶりを読み取っていただけたら幸いです。

◇

本学キャンパスは、東京と千葉に4つありますが、一般の学生が、東京と千葉を行き来することは、あまり多くありません。私自身、メディア部に加わるまでは、中野キャンパス以外のことをあまり知りませんでした。

しかし、各キャンパスには特色があり、様々な分野で、多くの学生が活躍しています。離れているからこそ生まれる個性もありますが、多種多様な人、モノが交流することで生まれる新たな価値観もあると思います。

メディア部は、4つのキャンパスで生まれた独自性を結ぶ架け橋を目指します。スポーツに打ち込む学生たちの姿を、新聞やHPを通し伝えることで、さらなる刺激を生み、帝京平成大学の新たな一面の誕生に繋げられたらと思います。

最後に、新しい仲間が加わりましたので紹介します。人文社会学部二年の小島想太さん、中澤竜紀さん、人文社会学部一年の濱田知紗さんです。今後もメディア部の活動にご期待ください。（代表　眞木雄太郎）

スポーツジャーナル HP 始動

TEIKYO HEISEI Sports Journal（帝京平成スポーツ・ジャーナル）のウェブサイト https://sj.thu.ac.jp が始動しました。

強化部に指定されている硬式野球部、女子サッカー部、男子柔道部、女子柔道部、準強化部の男子バスケットボール部を中心に、選手たちの活躍ぶりを随時伝えています。本学スポーツへの熱い応援をお願いします。（メディア部）

本号は、眞木雄太郎、中嶋めぐ、鹿子嶋天良、髙木瑞希、比嘉理貴、南雲越喜、が担当しました。